

資料集成

精神障害兵士 病床日誌

第1巻~第3巻

ベトナム戦争以後、より顕在化した侵略する側の兵士のPTSDは、アジア・太平洋戦争下の大日本帝国陸軍の兵士たちにおいても深刻であった。陸軍病院に残された記録から、市民生活から切り離されて暴力と殺戮の現場にかり出され、戦争神経症を発症した、兵士・士官・軍属・看護師らが経験した「戦争」を浮かび上がらせる。

『病床日誌』知的障害編・戦争神経症編（不二出版刊「資料集成 戦争と障害者」所収）に続く、神経衰弱編および新発田陸軍病院（新潟）の「精神障害兵士」の記録を収録！

●編 細湊富夫・清水寛・中村江里

●推薦 吉田裕

●体裁 A4判・上製・総約九五〇ページ〔編集復刻版〕

●各巻定価 二五、〇〇〇円＋税

●配本 全3回配本

六花出版

推薦します

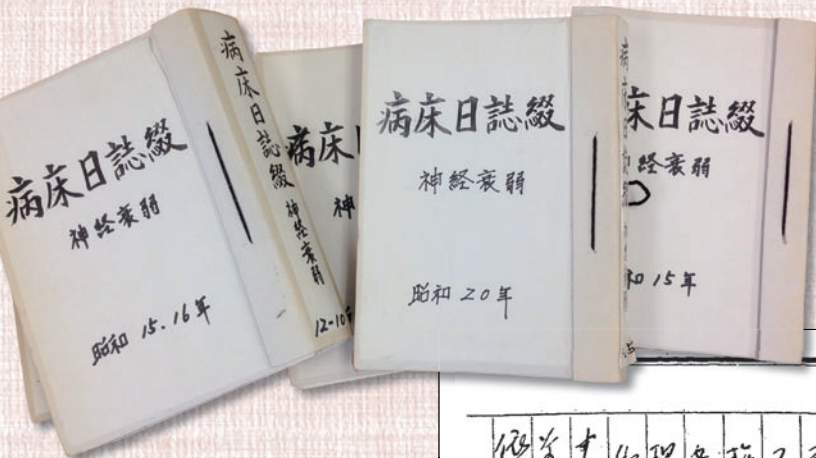
「天皇の軍隊」の本質を 浮かび上がらせる貴重資料

● 吉田裕

戦後かなりの時期まで、軍事史研究は旧軍人や自衛隊関係者のいわば専有物だった。敗戦前後の時期における軍関係公文書の大量焼却、軍関係史料の公開の大幅な立ち遅れ、軍事史研究を特殊視する歴史学界の風潮などが、この傾向に拍車をかけた。そうした状況は一九九〇年代頃から大きく変わり、社会史・民衆史の側から軍隊や戦争を捉え直そうとする研究が急速に進んだ。現在では、一行政村レベルまで下降して軍事行政の歴史の変遷を明らかにした精緻な研究も現れ始めている。

その一方で、これまで歴史として可視化されてこなかった軍隊組織の暗部に光をあてた研究もつぎつぎに立ち現れてきた。「精神障害兵士」の問題はその象徴的存在であり、本資料集成の三人の編者は、歴史の闇に埋もれていた「精神障害兵士」の存在を歴史研究の対象としてはじめて据え直した方々である。軍事関係史料の残り方にはかなりの濃淡があるが、「精神障害兵士」関係の史料は目立って少ないように思う。そのこの意味を問い直すこと自体が歴史研究の課題であることはいうまでもないが、困難な状況の中で貴重な史料の収集にあたられた編者の方々にあらためて敬意を表したい。同時に、本資料集成の刊行が「天皇の軍隊」の持つ特殊性と普遍性を、「精神障害」という新たな視角から浮き彫りにする大きな契機となることを期待する。

(よしだ・ゆたか 一橋大学大学院社会学研究科教授)



精神衰弱 昭和 15.16年	精神衰弱 昭和 20年	精神衰弱 昭和 15年
-------------------	----------------	----------------

精神衰弱 昭和 15.16年	精神衰弱 昭和 20年	精神衰弱 昭和 15年
-------------------	----------------	----------------

精神衰弱 昭和 15.16年	精神衰弱 昭和 20年	精神衰弱 昭和 15年
-------------------	----------------	----------------

「神経衰弱症」と診断された患者の記事。原職は料理業、発病は満洲で、34歳。戦地で数多くの屍を見た、その死体や胸から血を出している死体が、読んでいる新聞の上に見え、ストーブの中や茶瓶の中に入っているような気がしてならない。つまらないことだと知りつつその観念がつきまとって離れない。家に帰ってもそばで寝ている妻の顔がいきなり戦地で見た死人の顔に見えていやになった、とある(第1巻「神経衰弱編I」所収)

月日	症	病名	治
		血族の關係 既往 症	現 症
		當部隊ニ收容以前、病床 日誌記事(第一號紙)ニ証 據書(其ノハ昭和二十年八 月十六日燒却セリ)	天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站

右の患者の記事。「第1号紙」や病床日誌記事が1945年8月16日に焼却されたことを示す(第3巻「新發田陸軍病院編」所収)

病 床 日 誌		番 號		調 査 員	
名	病	號	番	調 査 員	調 査 員
國立王子病院第一五三號 昭和二十年八月八日	病院第一五三號 昭和二十年八月八日	病院第一五三號 昭和二十年八月八日	病院第一五三號 昭和二十年八月八日	天津第一五三兵站 昭和二十年八月八日	天津第一五三兵站 昭和二十年八月八日
官職	原職	籍	原	調 査 員	調 査 員
農業者	農業者			天津第一五三兵站 昭和二十年八月八日	天津第一五三兵站 昭和二十年八月八日
退院	入院	初診	發病	勤仕年	出生
昭和二十年四月六日	昭和二十年七月一日	昭和二十年五月二日	昭和二十年五月二日	昭和二十年五月二日	昭和二十年五月二日
治療日數	轉院	退院	入院	初診	發病
二百六十日	昭和二十年四月六日	昭和二十年七月一日	昭和二十年七月一日	昭和二十年五月二日	昭和二十年五月二日

「精神分裂症」と診断された患者の「第1号紙」(日誌の表紙にあたる)。原職は農業、発病時21歳。退院は1946年4月(第3巻「新發田陸軍病院編」所収)

月日	症	病名	治
		血族の關係 既往 症	現 症
		當部隊ニ收容以前、病床 日誌記事(第一號紙)ニ証 據書(其ノハ昭和二十年八 月十六日燒却セリ)	天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站
奈田軍醫少尉			

「神経質」と診断された患者の記事。原職は漁業。入営は20歳。自分のような弱虫は国賊だ、殺してください、中隊に帰っても馬鹿扱いにされる、とある(第1巻「神経衰弱編I」所収)

月日	症	病名	治
		血族の關係 既往 症	現 症
		當部隊ニ收容以前、病床 日誌記事(第一號紙)ニ証 據書(其ノハ昭和二十年八 月十六日燒却セリ)	天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站 天津第一五三兵站
奈田軍醫少尉			

「精神分裂病」と診断された患者の記事。原職は農業、入隊は20歳。夜中に営内を彷徨し見つかったときは疲労困憊し濡れた衣服のまま便所に隠れていた。その後精神もうろうとし死を願うとある(第3巻「新發田陸軍病院編」所収)

精神障害兵士

病床日誌

第1巻～第3巻●概要

●編 第1巻・第2巻

●細渕富夫（埼玉大学教授）

清水寛（埼玉大学名誉教授）

●第3巻 ●中村江里（二橋大学特任講師）

●推薦 吉田裕（二橋大学大学院社会学研究科教授）

●体裁 A4判・上製・総約九五〇ページ

【編集復刻版】

●揃定価 七五、〇〇〇円＋税（各巻二五、〇〇〇円＋税）

●配本

『病床日誌』（国府台陸軍病院）

『神経衰弱編Ⅰ』

二〇一六年二月刊行 ●定価 二五、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-86617-024-4

『病床日誌』（国府台陸軍病院）

『神経衰弱編Ⅱ』

二〇一七年六月刊行 ●定価 二五、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-86617-025-1

『病床日誌』

新発田陸軍病院編

解説 ●中村江里

二〇一七年二月刊行 ●定価 二五、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-86617-026-8

関連図書のご案内

編集復刻版

傷痍軍人・リハビリテーション関係資料集成全7巻

アジア・太平洋戦争下、戦場で負傷し、さまざまな障害を負って帰国した兵士たちに関する資料約七〇点を収録。

当時の法・制度を明らかにする例規や全国各地の療養所・リハビリテーション施設の概要、「美談」集等を収録。とくに障害兵士自身による多数の文集を全国から集め、厳選して掲載した。

総力戦下の「銃後」対策・動員政策であると同時に、現在の日本のリハビリテーションの原点でもある「傷痍軍人」に関する資料集成。

●編 サトウタツヤ・郡司淳

●解説 サトウタツヤ・郡司淳・上田早記子

●概要 A4判・上製・総約二、五〇〇ページ

●推薦 吉田裕・上田敏・坪井秀人

●揃定価 一七五、〇〇〇円＋税

編集復刻版

昭和期「銃後」関係資料集成全9巻

アジア・太平洋戦争の時代（1931～45年）、日本軍・政府と地域社会は、戦場で戦う兵士に思い残すことなく命を捧げさせるために、もうひとつの「戦場」である「銃後」をどのように慰撫し、激励し、また管理し、抑圧したのか――。

忘れ去られた動員のありよう、軍事援護の実態を貴重資料から明らかにする。働き手を失った家族、戦没兵士の遺家族、傷痍軍人、帰還兵士に対して、女性相談員や方面委員を使い、「未亡人」の就職の世話、性の管理、恩給の配分のトラブル解決、傷痍軍人の結婚、等々、あらゆる手厚いケアと精神的・物質的な支配が展開された。同時に、前線の兵士に、郷土のための戦いを意識させるべく、慰問文集が編まれ、「後方支援」を担う役割も果たす。

女性史、軍事史、軍事教育史、戦時生活史をはじめとする近代史研究に必備の「銃後」資料66点を厳選し復刻刊行！

●編・解説 一ノ瀬俊也

●概要 A4判・上製・総三、三〇〇ページ

●推薦 吉田裕・加納美紀代・成田龍一・前田一男

●揃定価 二二五、〇〇〇円＋税

*表示価格はすべて税別。

